



歴史のドアを開けよう

Natural History
第57回

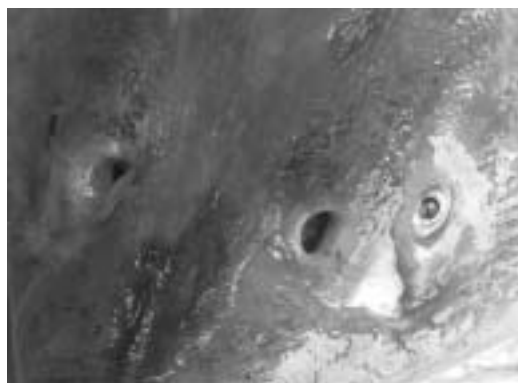
いしかり博物誌

■文化財課 ☎72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩海浜植物保護センター ☎60-6107
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp



▲11年ぶりに石狩川で捕獲されたチョウザメ



▲チョウザメの顔

5

月27日、石狩川河口で11年ぶりにチョウザメが

網に掛かりました。オスの成魚で体長2.3m、体重100kg以上と推定され、記録に残るものでは最大級に近いものです。

石狩市には、江戸時代から伝わる伝説があり、それによると、この魚は石狩川のぬしだといわれます。そのため石狩弁天社や金龍寺には、チョウザメの神様(鮫様)が祭られています。この神様はサケ漁の神様です。

石狩川のチョウザメが歴史に登場するのは、享保2(1717)年が最初です。

チョウザメは、なぜ石狩に来たか

チ

ョウザメは、映画『ジュラシックパーク』でおなじみの中世代ジュラ紀後半期、約1億5千万年前に現れた古代魚だそうです。現在、世界で27種類ほどいますが、ほとんどが絶滅の危機にひんしています。明治末ごろには、花畔などでロシア人がキャビアをとるためチョウザメ漁をし、同じころの札幌の市場では、夏の魚として売られていたそうです。しかし、それ以降はほとんど幻の魚となっていました。

このときは、「菊とし鮫」の名で松前藩が幕府に献上しています。漢字では「蝶鮫」と書きますが、これはうろこ板がチョウの羽を広げたように見えるからです。この魚は、普段は海にいて繁殖期(5、6月)になると川をそ上します。記録では、現旭川市の神居古潭まで上っています。しかし、サケのように産卵などの後、死ぬことはありません。過去、石狩川では「ダウリアチョウザメ」と「ミカドチョウザメ」の2種がそ上した記録があります。今回捕れたのは、「ダウリアチョウザメ」の方だと考えられます。「ダウリア」は、昭和44年、平成5年の2回捕獲されています。この種類は、最大で体長5m、体重1t、寿命も50年を超えるといわれ、中国では「皇帝の魚」などとも呼ばれています。

『北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001』では、チョウザメはすでに絶滅した魚に分類されています。



▲昭和44年のチョウザメ
(昭和44年10月3日北海道新聞夕刊より)

ですから今回捕れたのは、奇跡的なのです。また、繁殖行動する時期に捕れていますので、繁殖のためにそ上していたのかもしれませんが、今回は仕方がありません。今回はひんしている貴重な生物ですので、今後は網に掛かっても放してあげたいものです。(石橋孝夫)